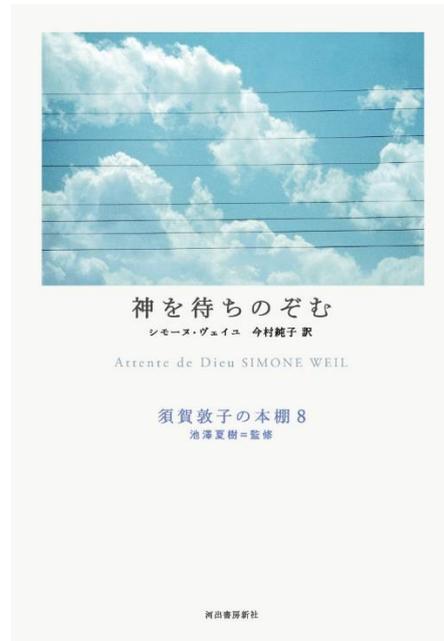


シモーヌ・ヴェイユ、今村純子訳『神を待ちのぞむ』河出書房新社
刊行記念トーク・セッション

映画を撮ること、言葉を紡ぐこと

今村純子（訳者）× 江島香希（映像作家）

日時：2021年3月6日（土）18:30-20:30
Zoomによるオンライン開催（参加無料）



シモーヌ・ヴェイユが誕生して111年目の年に刊行された新訳『神を待ちのぞむ』を、神や宗教という言葉から離れて、芸術家が作品を創造するように、わたしたちが自らの生を創造するものとして捉えたとき、どのような可能性がひらかれるのでしょうか。映画『女として生きる』（2011年）を監督された江島香希さんをゲストにお迎えして、考えてみたいと思います。

タイム・スケジュール

18:30-19:00 映画をみるシモーヌ・ヴェイユ（今村）

19:00-19:20 シモーヌ・ヴェイユを語ること（江島→今村）

19:20-19:40 映画を撮ること（今村→江島）

19:40-20:00 見ることと創ること（江島×今村）

20:00-20:30 コール・アンド・レスポンス

司会進行：奥村大介（比較文学者）

参加方法：Zoomによるオンライン開催です。以下の参加フォームにより、3月5日（金）までにお申込みください。お申込みくださった方のメールアドレス宛に、当日正午までに参加URL等を記した案内メールをお送りいたします（当日正午までに案内メールが届かない場合、下記の問い合わせ先メールアドレスにご連絡ください）。

<https://forms.gle/HWgcaL8nDymytEiZ7>

主催：シモーヌ・ヴェイユ研究会

後援：河出書房新社

問い合わせ先：imajun@aol.jp（今村純子）

シモーヌ・ヴェイユ (Simone Weil, 1909-43)

1909年パリ生まれ。激動の時代に34年の生を駆け抜けたユダヤ系フランス人女性哲学者。高等学校でアランの薫陶を受け、文学や現実に対する哲学的分析に才気を放つ。高等師範学校卒業後、高等学校の哲学教師として各地に赴任する。労働運動への参与、工場生活の経験、スペイン内戦参加などを通して、学識を現実のなで捉え直してゆく。ペラン神父との出会いを通して、宗教とは何かを根本的に問い直す。両親とともにニューヨークに亡命するも、単身ロンドンに戻り、自由フランス政府のための文書『根をもつこと』を執筆中、肺結核により自宅で倒れる。1943年、十分な栄養を取らず、アシュフォードで餓死。戦後、ティボンの編んだアンソロジー『重力と恩寵』によりその名が世に知られ、ペラン神父編纂による本書『神を待ちのぞむ』に続き、作家・編集者のカミュの手で次々に著作が刊行される。

今村純子 (いまむら・じゅんこ)

イメージの哲学、映画論。東京大学大学院人文社会系研究科修士課程修了。京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。哲学 DEA (ポワティエ大学)、学術博士 (一橋大学)。現在、女子美術大学・白百合女子大学・成城大学・武蔵野美術大学・立教大学兼任講師。著書に『シモーヌ・ヴェイユの詩学』(慶應義塾大学出版会、2010年)、責任編集に『現代詩手帖特集版 シモーヌ・ヴェイユ』(思潮社、2011年)、訳書にミクロス・ヴェトー『シモーヌ・ヴェイユの哲学』(慶應義塾大学出版会、2006年)、シモーヌ・ヴェイユ『前キリスト教的直観』(法政大学出版局、2011年)、編訳書に『シモーヌ・ヴェイユ アンソロジー』(河出文庫、2018年)などがある。

江島香希 (えばた・こうき)

パリ第三大学大学院芸術メディア研究科映画視聴覚専攻修士課程修了。映像作品にドキュメンタリー映画『女として生きる』(監督、2011年)、ドキュメンタリー映画『カレが捕まっちゃった 9.11 原発やめろデモ!!!!!! ことの次第』(監督、2012年)、東京藝術大学大学院映像研究科映画専攻第7期修了制作長編映画『バイバイ、マラーノ』(編集、2013年)などがある。